

THANKS

(VOL. 190)

BUSINESS NEWS LETTER

発行日：平成25年4月1日
発行者：有限会社サクスマインドコンサルティング
連絡先：〒359-1118
埼玉県所沢市けやき台1-41-11
TEL:04-2922-1417
E-MAIL：info@thanksmind.co.jp
<http://www.thanksmind.co.jp>

特集

「四字熟語から学ぶ仕事における心構え⑤」

今、本誌では「四字熟語」を参考にしながら、私がコンサルティングを通して「こんなことが大事では・・・」と思うことを紹介しています。

題して、「四字熟語から学ぶ仕事における心構え」。

「す」で始まる熟語から始めますが、今回は、お酒にまつわる私の失敗談が中心です。

す：「酔眼朦朧（すいがんもうろう）」

<意味>

酒に酔い、目の焦点が定まらなくなって、ものがはっきり見えないこと。
酔ってぼんやりしている様子。

<使い方>

彼は酔眼朦朧としてあたりを見回した。

「伊藤さん。この前はよく飲みましたね。私はあの後、大変でしたよ。
新幹線に乗ったんですけど、新横浜で降りるはずが、気がついたら三島。
帰りの電車も無いし、ホテルも満室だし・・・
仕方がないから、駅の近くのビルの中で野宿しました。いや～寒かったな・・・」

お客様の話を聞きながら大笑いしていましたが、私にしても、たくさんのお酒の失敗があります。
思い出すが、ちょうど10年前のこと。

深酒をした私は、気がついたら、駅の階段を上っていました。

「ここはどこ駅？」

自宅の最寄駅ではありません。

どうやら、勘違いをして途中駅で降車してしまったようです。

「仕方ないな。次の電車に乗って帰ろう」

そう思った時、私は、ふと肌寒さを感じました。

「まずい！ スーツの上着を電車の網棚に置き忘れた！」

一瞬にして酔いが覚めました。

すぐに駅員室に駆け込んだ私。

「すみません。今、出て行った電車に上着を忘れたんですが・・・」

「何両目の車両ですか？」

「何両目と言われても・・・ 真ん中あたりだったかな・・・」

「車両の中のどの辺ですか？」

「どの辺と言われても・・・ 真中あたりだったかな・・・」

酔っ払っていた私は、答えようがありません。

「まあ、とにかく途中駅で探してみますから、少しお待ちください」

優しい言葉はかけてくれたものの、その顔には「酔客はどうしようもないな」という気持ちが表われています。

スーツの中には、財布や手帳が入っています。

「あー情けない。もし、このまま無くなったら大変だな・・・」

まさに、『トホホホ状態』です。

駅で待つこと20分。

「伊藤さん。」

私は駅員さんに呼ばれました。

「途中駅で探してみたのですが、見つかりませんでした。車両の位置が特定できないので難しいです。終点の本川越で、もう一度探してみます。」

「そうですか・・・」

「もし見つかったらどうします？こちらでお預かりしておきましょうか？」

「いいえ。今から私も本川越に行きます」

「そうですか・・・でも、本川越に行ったら、もう上り電車はありませんよ」

「仕方ないです・・・」

電車で上着を追いかける私。

途中で自宅の最寄駅に着きました。

「ここで降りたいよ～」

心の中で叫びました。

やがて終点の本川越。

駅員室に入った時、私の目に、「懐かしい上着」が目に入りました。

「上着を忘れた伊藤です。そこにあるのは、私のものです」

「一応、ポケットの中身を確認してください。」

「大丈夫です。何も無くなっていません。」

「気をつけた方が良いでしょう。忘れ物をそのまま持ち帰られてしまうケースも多いですから」

本川越からのタクシーの中。

普段ならば、爆睡するのに、すっかり眠気が覚めています。

だんだん自分に対して腹が立ってきました。

「なんで、途中で降りてしまったんだろう。ホントにバカだよな～」

「夜間割り増しで、5400円になります」

自宅について運転手さんから請求されました。

「そういえば、財布があったから払えたけれど、もし見つかってなかったら・・・」

ホトホトあきれられる私です。

せ：「前後不覚（ぜんごふかく）」

<意味>

前後の区別もなくなるほど正体がなくなること。
何がおこったのか、何をしたのか、全く覚えがなくなること。

<使い方>

昨晩は前後不覚に酔いつぶれてしまった。

もうひとつお酒にまつわる情けない話です。
やはり10年くらい前のこと。
自宅の最寄駅である新所沢の階段を上る私は、カバンと一緒にビニールの手さげ袋を持っていることに気がきました。
「これは何？」
袋の中を見たら、雑誌がドッサリ入っています。
皆さんは、駅でゴミ箱の中から雑誌を取り出しているオジサンたちを見かけたことはありませんか？
捨ててあるものを拾って、駅の前などで安価で販売しています。
私が持っている袋は、まぎれもまく彼らが普段使っている袋なのです。

「何でこんなもの持っているの？」
まさに前後不覚の状態です。
拾ったものなのか？
もらったものなのか？
それとも奪い取ったのか？
いくら考えても思い出しません。

冷静に考えて・・・
こんなものが道端に落ちているとは思えません。
また、生計を立てているものを、もらえるはずはありません。
となると、一番可能性があるのは三番目？
考えているうちに、何だか怖くなってきました。

駅員室に持って行くことも考えましたが、やはり無理。
「この袋どうしたんですか？」
必ず聞かれてしまいますから。

「まあ、大したものでは無いから問題ないだろう・・・」
自分にそう言い聞かせながら、袋をゴミ箱の横に置いて帰りました。
もちろん、取っ手の部分の指紋をしっかりと拭き取りながら。

「酔っ払っていたのだから、仕方が無い」
日本の社会は、従来「ヨッパライ」に対して寛大でした。
しかしながら、それは昔の話です。
顧客情報が入った書類やパソコンを無くしたりしたら、単なる「酒の失態」では済みません。
自分だけでなく、会社自体の信用を失墜させてしまいます。
楽しむことはOK。
しかし、酔眼朦朧、前後不覚にならないようにしないとイケませんね。

そ：即断即決（そくだんそっけつ）」

<意味>

チャンスを逃さず、即座に決断すること。
何かを決める時に、迷うことなくすぐに決断をくだすこと。

<使い方>

彼はいつも、即断即決で指示をする。

ソフトバンクが元気です。
2012年の携帯電話契約者の純増数は、5年連続のNO. 1。
2013年3月期には、過去最高の6,600億円の経常利益を見込んでいます。

今や日本を代表するIT企業に成長したソフトバンク。
その大きな契機になったのが、2004年の日本テレコムを買収です。
買収金額は約3400億円。
当時のソフトバンクは、Yahoo!BBを積極展開していましたが、経常利益は赤字のまま。
文字通り、社運をかけた非常に大きな投資でした。
ソフトバンクの孫社長も、さぞや迷ったことだろうと思ったら、とんでもない。
ほとんど即断即決だったそうです。

私はなんでもかんでも、即断即決が良いとは思いません。
しかし、今のような変化が激しい世の中では、迷っているうちに、どんどん状況が変わってしまいます。
また、競争が激化する中で、チャンスは、そう簡単に巡ってきません。
そう考えると、昔と比べれば、決断のスピードを上げることは、やはり必要でしょう。

決断が早い人と遅い人。
いったいどこが違うのでしょうか？
決断が早い人は、「思慮が浅い」ということではありません。
予め、「判断の基準」を持っていることなのです。
例えば、孫社長だったら、M&Aの案件に対して、
●自分が描く総合通信企業としての姿に適合すること
●投資金額が××億円の範囲であること
●投資回収の見込みが△△年以内であること
等が、もともと頭の中に整理されているのでしょう。
だから、M&Aの案件がきたら、自分の基準に当てはめるだけで、即座にOKかNGかの判断ができるのです。
決して衝動買いをしている訳ではないのです。
一方、決断が遅い人は、事が起ってから「判断基準」をつくります。
いくらだったらお金を出せるのか？
それから調べ、考えますので、当然、決断は遅くなってしまいます。

どんな仕事でも、今後、ますます決断のスピードが要求されるでしょう。
「ちょっと待ってください…」
昔だったら、待ってくれたお客様でも、「それだったら、他のところに頼むからいいや」という人が増えてきます。
そうならないためには、各自が「判断基準」をしっかり持つておくこと。
これは、全ての人にとって大切なことです。

<次回に続く>